

ランバンサリ通信

2003 No.6

ガムラングループ・ランバンサリ/多聞天

〒105-0013 東京都港区浜松町2-6-8-301

Tel: 03-5425-6137 Fax: 03-5425-6158

URL: <http://member.nifty.ne.jp/gong/>



ランバンサリ&多聞天 今後の活動予定

十六夜コンサート 其の弐 ～小島夕季ジャワ舞踊の夕べ～

日時：9月15日(月/祝) 開演 17:00 (開場 16:30) 雨天決行

会場：上野公園水上音楽堂・野外ステージ(屋根あり)

(JR 上野駅下車、徒歩5分)

舞踊：小島夕季

演奏：ガムラングループ・ランバンサリ

入場料：前売 3,000円/ペア 5,000円

当日 3,500円/ペア 6,000円

70歳以上 1,000円

小・中学生 1,000円

6歳未満 無料

問い合わせ・予約：

スフェール・グノシエンヌ「十六夜コンサート事務局」

Tel&Fax: 03-3986-2760/E-mail: kembangmelati@hotmail.com

ホームページ：<http://www.h5.dion.ne.jp/~melati/news/>

車椅子スペース、乳幼児のための母子室あり。

ジャワ舞踊家・小島夕季さんの自主公演「十六夜コンサート」が今年も開催されます。上野公園の不忍池近くにある水上音楽堂で初秋の宵をジャワ舞踊とガムランでお楽しみ下さい。プログラムが進むにつれて、だんだん日が暮れてきて、涼しい風が吹きはじめ、ガムランの音に虫の声が加わり、空には月が・・・というロケーションは、昨年も大好評でした。

今回は、小島夕季さんが「ガンビオン・チャンプルサリ」「ラントヨ」「ガンビオン・バレアノム」「ゴレ・ランバンサリ」と、4つの作品を踊ります。どうぞお楽しみに。

第14回アジア文化講座ジャワ舞踊レクチャーシリーズ part 2

「日常の動作を取り入れた踊り」

日時：9月27日(土) 18:00 (開場 17:30)

会場：ランバンサリ・スタジオ

講師：飯島かほる

演奏：ガムラングループ・ランバンサリ

会費：1,000円 (友の会正会員 500円) ジャワティー付

協力：サンガール・パムカス

予約・問い合わせ：ランバンサリ事業部「多聞天」

Tel: 03-5425-6137 Fax: 03-5425-6158

E-mail: bima@jp-t.ne.jp

王宮から遠く離れたジャワの農村部で生まれ、都市で開花した生活感あふれる踊りが今回のテーマです。「ガンビオン」や「ボンダン」は現在でも非常に人気の高い演目ですが、その起源は村の儀式にたどることができます。一般庶民の生活に根付いたこれらの踊りには、日常の動作も多く取り入れられており、庶民の生活を垣間見ることができます。また、これらの踊りを基礎にして多くの新しい舞踊が創作されてきました。今回は S. ガリマン氏作の「ボンダン・マルディシウィ」と「タリ・パティック」の2つを取り上げ、村から発展した踊りについて、また新しい舞踊の創作過程についてお話しします。(飯島かほる)

*ランバンサリの伴奏による踊りの実演も行います。

パティック講座

マイペースで作品作りに取り組めるのが特徴です。ハンカチなどの身近なものから、カインパンジャンという一枚布まで、幅広くご指導します。エスニックの薫りあふれる小物からウェアにインテリアに生活の彩りにお楽しみください。

日時：9月28日(日)/10月12日(日) 14:00～17:00

会場：ランバンサリ・スタジオ

講師：中右絢子(なかう あやこ)

用意するもの：エプロン、4Bの鉛筆、洗濯ばさみ4つ。その他の材料、道具等は先生が準備して下さいます。

参加費：3,600円(一般)

3,100円(友の会正会員)

*初回はハンカチ布代が別途必要となります。

日曜ガムラン

どなたでも楽しめるガムラン練習。初心者大歓迎。1回だけの参加もOKです。継続して参加したい人には、さらにオススメです。

日時：9月7日(日) /9月21日(日) /10月5日(日) /10月19日(日)

16:00～18:00

会場：ランバンサリ・スタジオ

参加費：2,000円

* * * * *

★ヘリ・ドノのパフォーマンスに参加★

新潟県で開催されている「大地の芸術祭～越後妻利トリエンナーレ 2003」で上演されたインドネシア・ジョグジャカルタの芸術家ヘリ・ドノのパフォーマンス(8月10日)に、ランバンサリのメンバーが参加しました。タイトルは「ゴールデン・バッファロー・プロジェクト」。出演は、ヘリ・ドノ、地元の太鼓と笛のチーム4名、ランバンサリのメンバー4名(折田美木、木村佳代、村上圭子、森重行敏)、ダンサー4名に加えて、黒牛のまめごろう、耕運機2台という異色の作品でした。会場は何と松代町のとある水田!音楽はあぜ道で演奏しましたが、その他の出演者は、水田の中に入って、泥の中での熱演となりました。

作品は5つのエピソードに分かれており、(1)かつて水田では人間と共に牛が働いていたことを回想～(2)文明の象徴である耕運機の登場～(3)牛と耕運機が混在している状況～(4)牛と耕運機の戦い～(5)共に共存して行く楽しい様子を象徴的に表現していました。観客の皆さんは、橋の上から覗き込んだり、近くのをあぜ道に立って鑑賞。地元のおじいさんも、「昔は牛と一緒に働いていたなあ」と懐かしそうに見ていたそうです。牛のまめごろうは、NHKの朝の連続テレビ小説「こころ」にも出演しており、ヘリ・ドノの演出通り歩いたり止まったりしながら演技をしていました。もちろん牛引きの人はいるのですが、さすがプロ。最後まであばれることもなく、とてもおとなしくて利口な牛でした。

実は、ヘリ・ドノとランバンサリの共演はこれで2回目。前回は、2000年国際交流フォーラムで「ヘリ・ドノ展～映し出されるインドネシア」の折に行ったオープニング・パフォーマンスで、ジョグジャカルタの音楽家ジャドゥックがゲストで参加し、ワヤン仕立ての作品でした。果たして今回のチャンスがあるのやら? 会うたびに不思議な方向へ進化していくアーティストです。

★屋形船に乗る★

たまにはガムランを忘れて遊ぼう!というこで、8月14日の夜、ランバンサリ&そのお友達17名で、念願の屋形船に乗りました。小雨のばらつく天気でしたが、スタジオから歩いて1分のところにある船宿から出発し、夜の東京湾を満喫しました。参加者の多くは、スタジオで浴衣に着替えて(着付けはランバンサリの西村はる美先生)、ふだんとはまた違ったあでやかな雰囲気との宴となりました。早くも「次は鍋料理で冬の屋形船だあ!」という声が出ています。

■お申し込み・お問い合わせ：ランバンサリ事務局■

Tel & Fax: 03-5300-6361 (木村)

E-mail: o-moon@zd5.so-net.ne.jp

講座のお申し込み・公演の予約ご希望の方は、住所、氏名、講座・公演名を明記の上、ハガキ、電話、ファクス、Eメールのいずれかで、ご連絡下さい。

■ランバンサリ通信 2003年 No.6■

発行：ランバンサリ通信編集部

2003年9月5日発行